



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2550

〒320-0066 宇都宮市駒生1丁目1番6号 コンセーレ (栃木県青年会館)

CONCERE 1-1-6 KOMANYU UTSUNOMIYA CITY TOCHIGI JAPAN 320-0066

(2016~2017)ROTARY CLUB OF UTSUNOMIYA SATSUKI

TEL 028-624-1417 FAX 028-624-1843 URL <http://www.facebook.com/satsukiRC>

宇都宮さつきロータリークラブ 会報

第 96 回 例 会

日 時 : 2016 年 9 月 12 日 (月)

19 : 00 ~ 20 : 00

会 場 : コンセーレ中会議室

・開会	辰巳 洋一 SAA
-----	-----------

・点鐘	石川 均 会長
-----	---------

・ロータリーソング (奉仕の理想) 斉唱	
----------------------	--

・ビジター紹介	石川 均 会長
---------	---------

・宇都宮陽北ロータリークラブ 宇都宮さつきロータリークラブ特別代表	佐藤 節様
-----------------------------------	-------

・会長挨拶	石川 均 会長
-------	---------

皆さまこんばんは。

先週は、茨城県南部を震源とする地震があったり、途中で温帯低気圧に変わりましたが台風 13 号がまたもや日本列島を縦断したりと、何かと荒れた一週間となりました。皆さまにおかれましてはお変わりありませんでしたでしょうか。また、今週も秋雨前線の影響で曇りや雨の降る日が続くようです。特に明後日 (14 日) にかけては前線の動向によっては大雨の可能性もあるようですので十分ご注意ください。

また、「季節の変わり目には体調を崩す」と言われております。引続き体調管理にもお気づかいください。

さて、本日は会員卓話で和知さん、渡邊さん、湯澤さんをお願いいたします。持ち時間が足りないかもしれませんが、何をお話しいただけるか大変楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは今日も「好意と友情」を深めてまいりましょう。



増子 邦彦（ますこ くにはひこ）さん 2016年9月1日（木）入会
4つの誓い額贈呈
クラブ現況報告書 2016～2017 年度贈呈



エルディムさんへの奨学金授与



・幹事報告

齊藤 昇吾 幹事

1. 本日の連絡

① 会員卓話 1人10分

- ・和知孝道会員増強委員長
- ・渡邊正芳SAA委員長
- ・湯澤敦史副会長

未発表者(会員名簿順)

秋山さん、池田さん、小堀さん、増子さん、永井さん、夏目さん



2. 9月19日(月)
・敬老の日で祝日なので、休会。
3. 第97回例会 9月26日(月)
・佐貫直通地区ロータリー情報委員長卓話です。
・宇都宮さつきロータリークラブは、My Rotaryアカウントの登録100%にしましょう。
会員24名登録17名 70.8%(9月11日(日)時点)

・委員会報告 各委員会

1. 親睦活動委員会 吉川泰行委員長
10月31日(月)第101回例会を増子 邦彦さんの歓迎会とさせていただきます。
開催場所はセ・ラ・ヴィです。
2. 社会奉仕委員会 篠東雅仁委員長
先日の理事会で承認されました今期の新しいプロジェクトを発表します。名付けて「エコキャップでワクチンプロジェクト」エコキャップを集めてワクチンを寄付するプロジェクトです。期間は10月より始めます。今回は誰が何個集めたかカウントしたいと思いますので、持参したら一度篠東に渡してください。

・出席報告 篠東 雅仁出席委員

本日	会員総数 24 名	出席 17 名	出席率 70.8% 暫定
8月29日(月)	会員総数 23 名	出席 19 名	出席率 82.61% 確定
8月全体	78.26% 確定		

・スマイル報告 吉川 泰行スマイルボックス担当

- ・和知 孝道(宇都宮さつきRC)先週は、木・金・土で函館、札幌に研修旅行に行ってきました。風邪をひいて今日卓話つらいです。
- ・石川 均(宇都宮さつきRC)和知さん、渡邊さん、湯澤さん卓話よろしく願いいたします。

・卓話

<和知 孝道 会員>



私の会社は、皆様ご存じのように総合建設業いわゆるゼネコンであります。
昭和 26 年創業、ナベケンという愛称をいただき地域の皆様との信頼関係により、平成 5 年には従業員 500 名を超え、売上も 300 億を超えました。

現在は、厳しい建設業の環境下、通年で 70 億の売上、そして 9%の粗利益 6 億強を基本に私自身経営を考えています。

当社の現況は大体お分かりでしょうから、私共がどうして再生をはかったか、その辺の話の方が皆さんも退屈しないでしょうから、さわりだけですがお話をさせていただきます。

当社には、10 年前、大きな転換期がありました。平成 15 年足利銀行の一時国有化、ショッキングな出来事でした。

当時、総務部長であった私は財務全般も見ていましたし、金融機関との窓口でもありましたので、これから大変な事が当社にも起こるということは、安易に想像がつかしました。年が明け、当社にも銀行の方が 6 名ほど乗り込んでまいりました。

色々お話をいただきましたが、先方は、今のお取引様全てを、健全企業、何とか支援できる企業、切り離すオフバランス企業に振り分けるためのさぎょうをしておりましたので、当社にも資産査定をして欲しいということでした。

当社もちろんそれに応じ、4 大監査法人の 1 社から、会社の体力測定 (D. D) を行いました。

当時、負債もかなりありましたが、相応の資産もかなりありました。自力で歩む道も考えられないこともありませんでした。

しかし、これからますます厳しくなる受注競争の中で生き残るには、思い切って負債を減らし規模の縮小をはかり、従業員が安心して働ける会社に再生することが最も良い選択肢だと私自身は考えていました。

そこで、弁護士とコンサルと私で企業再生の道筋を練りました。何といても一番苦しかったのは、再生にはオーナー家を始め全役員の退任が必須条件だったことでした。その苦渋の決断をしていただいたオーナー家、役員の皆様方には今でも心から感謝をいたしております。

それから 3 年半かけて再生計画書を作成しました。

金融機関の尺度は一つ、清算バランスです。潰して回収するか、生かして回収するか、どっちが得かの基準です。再生計画とは、それとの闘いです。残していく方が必ず理論上良い選択と認めてもらうこと。そして当社にはまだそれだけの価値があること判断してもらうこと。

再生計画の最終審査。そこの最終答弁で私は聞かれました。「渡辺建設を残す価値は何かと考えますか」頭の中をいろんな答えが駆け巡りましたが、特許技術があるわけじゃない、表彰を毎年もらっていること、優秀な技術者がいること、こんな答えは通用するはずがない。

私は、「栃木県をはじめ多くの方々にナベケンと言って愛されてきた会社です。これからは沢山の方々とかかわっていく、渡辺建設じゃなくてナベケンだから残る価値があるんじゃないですか。」と答えました。

再生計画が承認されました。

金融機関の大変なご支援のもと、一般債権者には一切迷惑をかけない私的整理をやり遂げることができました。

これ以上事細かに話していると何時間でもかかってしまいますので、本日はさわりだけ申し上げました。

たった一人で再生計画を策定して、漏れ聞いた社員からは、辞めた方がいいんですか、



とか、会社はどうなるんですか、とか質問の嵐。私は詳しいことは話せないが、俺を信じて絶対やめるなと答えていました。

平成 15 年から 3 年半、77 キロあった体重も 65 キロに、そして頭が真っ白になるほど全力疾走するとは思ってもみませんでした。

その後確実に歩を進め、金融機関からの信頼も回復し、今現在ナベケンの社長として再び地域の皆様と歩める存在でいられることに心から感謝申し上げ、卓話といたします。

<渡邊 正芳 会員>



私の生い立ちですが、1947 年 12 月 23 日上三川町の農家の長男として生まれました。とにかく貧乏でした。麦飯しか食べたことがなく、4 歳の時から干瓢剥きの作業に従事して、朝は 3 時から叩き起こされました。そのおかげで目が細くなったのかと思います。農業というのは、1 本 1 本田植えをして今のように機械がありませんから馬の鼻踏みをして田をおこしました。また稲刈りは、1 株 1 株鎌で刈りました。おかげで手は傷だらけでした。白米を食べられるようになったのは、昭和 34 年 5 年生の時でした。おもわず「万歳」と叫びました。こんなに米の味が美味しいのかと感じました。幸せだったのは、貧乏でしたが両親や両祖父母のかわいがられて愛情いっぱいに育ちました。地元の明治小学校、明治中学校を経て県立宇都宮農業高校に進学しました。

転機が訪れたのは、昭和 47 年 24 歳の時です。農家ではお金持ちになれないと思った私は、不動産業に就職しました。初任給は 4 万 5000 円でした。歩合制だったため 3 ヶ月後には 100 万円の給料をもらっていました。昭和 48 年にオイルショックがあり、前年に宅地建物取引主任者の資格を取得した関係で友人に誘われて会社を手伝いことになりました。お金持ちになるには自分で会社を興すしかないと思い昭和 51 年 28 歳の時に会社を設立しました。上三川の明治村生まれで「明」成功の哲学の「成」太陽興業の「興」3 年間勤めた富士興産の「産」をいただき会社名を「明成興産」と名付けました。幼少の頃の貧乏がトラウマになり早く金持ちになりたい一心で、昭和 60 年 38 歳の時ホテル業に 20 億円、間髪をいれず不動産取引資金として 20 億円を投下しました。42 歳の時には、誰の意見も聞かずパチンコ事業に 20 億円を投資しました。合計 60 数億円です。社員数も不動産業とホテル業とパチンコ業で総勢 150 名を超えておりました。本社も建設し、借金も 60 億円あるが資産も 100 億円あると得意の絶頂でした。

さらに転機が訪れたのは、平成 2 年 26 年前の年の瀬、日銀総裁が澄田総裁から三重野

総裁に変わり銀行の総量規制により日本のバブル経済がはじけました。私の転落の始まりです。各銀行から矢のような催促を受け、夜も眠れず、血尿が出るほど悩みました。パチンコ業で6億円の赤字を出し一時は自己破産や自殺も考えましたが残った家族や社員のことを考えると思いとどまるしかありませんでした。その時の心境は、1000万円を1kgとすると65億円は650kgになります、1億円を1℃とすると65億円の借金は-65℃でございませう。650kgの荷物を背負い-65℃の極寒の中、必ず返済して生き延びてみせると自分の心に固く決心しました。あれから26年間苦しみの中で借金を返済し、現在の借入金の総額は、8000万円を切るまでになりました。ずいぶん心が楽になりました。

今までの26年間は、苦しみの中で一生懸命借金を返済する人生でした。しかしこれからの26年は、楽しみながら事業をしていきます。特にロータリーで学んだ4つのテストを心の武器としていきます。1. 真実かどうか2. みんなに公平か3. 好意と友情を深められるか4. みんなの為になるか 最長老の小生ですが26年後が楽しみです。いくら稼げるか？おそらく軽く65億円は突破していると信じています。地獄から天国への旅を楽しみたいと思います。これまで倒産せずにやってこられたのは多くの人の助けがありました。心から感謝しております。この苦しみの中で大いなる発見がございました。心から尊敬する人を発見したのです。中村天風先生、渋沢栄一先生、松下幸之助先生、孫正義先生でございます。また苦しみの中で宗教心を養うことを発見しました。お釈迦様の教えに入信しました。心の支えとなりました。また本にも助けられました。ここに持参いたしましたが、「会社と家族を守って借金を返す方法」と五木寛之著書の「玄冬の間」と福沢諭吉著書「学問のすゝめ」がございませう。月1回は、大田原の光真寺のお参りに行っております。煩惱に心が汚れておりますので、座禅をして清らかな心で戻ってきます。なぜか1ヶ月経つとまた忘れてしまいます。

私の信条は4つあります。1. 他力本願(困ったときは仏様をお願いする)2. 創意工夫(一生懸命努力する)3. 得意技で決める(レッドオーシャンではなくブルーオーシャンで戦う)4. 生涯現役(但し老害がでたらキッパリやめる)

高校しか卒業していなかったもので、人生のリセットを考えて1999年の17年前51歳の時に那須大学都市経済学部に入學しました。4年間150kmを往復し無事138単位を取り卒業しました。社業、社金返済、学業の3本立てで大変苦勞し、特にパソコンと英語にはてこずりましたがなんとか落第せずに卒業することができました。

最後に私が毎朝トイレで必ず読んで出社しているものを紹介します。

「人生を成功に導く20の法則」

人生を成功に導く20の法則

1. 陽転思考で生きる
2. マイナスの言葉は使わない
3. 自分の運命を心から信じる
4. 「ごめんなさい」がきちんと言える
5. 身の回りを整理・整頓・清潔にする
6. 人生の哲学を持つ
7. 人の成功を助ける人になる
8. 心配するのはやめて、今に集中する
9. 常に笑顔で人に接する
10. 人の話を真剣に聞き、聞き方を高める
11. 人に伝える力を高める
12. 成功のイメージを描き続け常に声に出す
13. 即行動する
14. 成功者の行動に学びまねる
15. 「ありがとう」「感謝します」「ツイている」を口癖にする
16. 成功するまで続ける強い意志を持つ
17. 他人のせいにならない
18. 富貴な心の持ち主になる
19. 人との縁を大切にする
20. 目標達成の期限をくぎる

平成28年1月1日

株式会社 明成興産 グループ

会長 渡邊 正芳





みなさんこんばんは

今までみなさんのお話を聞いてきて、ずいぶん他県出身の方が多いのだなと驚きました。私は、このコンセール辺りは駒生町というのですが、私は駒生原人です。800年位前から住んでいると聞いています。うちには屋号があって「中城」というのですが、宇都宮城と多気城があってその中間の出城に住んでいたか城主だったかよくわからないのですが、そのような言い伝えがありまして、子供の頃は中城と言われてどうしてなのかなと思っておりしました。

今日は、自分の原点や今していること今までやってきたこととお話したいと思います。去年還暦を迎えまして61歳になりました。会社は、湯澤一級建築士事務所というのですが、社歴は60年を越えた栃木県では老舗の設計事務所です。先代の私の父が作った会社なのですが、創業当時は渡辺建設の社長さんにお世話になって、その当時副知事を紹介していただき上都賀庁舎の設計をさせていただきました。その当時は紹介などで仕事ができただけでもあったようです。地元には深く根付いてやっている会社です。会社も今まで順風満帆でやってきたわけではなくて、根は張っていましたが枝や幹が折れそうになった時期もありました。いま父親に感謝したいなと思うのは、しっかり根を張ってやってきた会社ですと脇の方から芽が出てくるのです。今はその芽を大きく育てようという時期なのかなと考えております。私も設計事務所を継いでから10年ですが、そういう時期と考えて役所の仕事や民間の仕事などを頑張っている時期でございます。今まで設計した建物をいくつか紹介します。公共では城山小学校や城山中学校、コミュニティーセンターなど設計しました。民間では、私が一級建築士を取ったばかりの処女作ともいえる市役所南のイタリアンレストランを設計しております。その近くの「もんみや」の本社屋を設計しました。その他「渡清」の本社工場、ステーキ宮の駅東店、オリオン通りの「ワイズティー」などを設計しました。県の陸上競技場の改修設計をやっていたのですが、本日完成検査があり無事合格しました。

そして私の原点は何なのかと思っていたのですが、地元の小学校、中学校に行きましたが、進学するたびに自分の世界が少しずつ広がっていった気がします。小さなコミュニティーからどんどん大きなコミュニティーに生きるようになったのかなと感じています。そして東京の大学に進学して日本全国に友人が出来るようになって、日本全国から来ている色々な価値観を持った人たちに会って凄いなと感じました。そして卒業する間近になってまだ世界をみていないことに気づき、旅行者としてではなく住んでみたいと思いがあり

英語も勉強したいのもあったので、アメリカという選択肢もあったのですがロンドンに行きました。1年程住むことになったのですが、まず語学の専門学校に行きました。留学の目的は語学の研修をすることと建物の見学というのがありました。その目的以外に大きなおまけが付きまして。その語学学校が人種のるつぼで、世界各国からサマーバケーションを利用して英語を学びに来る人たちがたくさんいます。その方たちと友達になったのですが、40年経った今でも友好関係のある友達がいいます。一人はフランスのリヨンに住んでいるご夫婦とも知ってまして、もう一人はフィンランドのヘルシンキに住んで知る方で、日本にも来てくれて日光を案内したりしました。来年あたりに遊びに行きたいと考えています。そんな友達がたくさんできてヨーロッパ旅行する時もタダで泊めてもらったりしています。どうして外国に興味を持ったかという、伊丹十三さんが書いた「ヨーロッパ退屈日記」や「女たちよ」という本や森哲郎という哲学者の本などの旅の本に感化されて是非行ってみたいと考えていました。行ってみると色々なカルチャーショックを受けました。イギリス人はすごく並ぶのです。日本人が並ぶのとは少し意味が違って、イギリスでは先に来た人の権利を尊重し相手の権利を守ってくれるのです。日本人の並ぶのは、何かを合理的にするのには並んだ方がいいみたいな感じです。イギリス人は凄いジェントルマンです。信号機がない道路を渡ろうとすると止まってくれます。そして白鳥の湖が始まるのです。白鳥の湖というのは、先頭の車の運転手が窓から手を出して上下に振って後続車に知らせてくれるのです。その後ろの車もさらに後ろの車に知らせるといのがずっと続いて白鳥の湖みたいになって止まってくれます。デパートに行くと入口の大きなドアがあるのですが、前の人がドアを開けると次の人が来るまで開けて待っていてくれるのです。そういったことが非常に驚きました。それから雨に濡れながら歩くのが好きなのです。日本だと病気になったりするので嫌がりますが、イギリス人は「なぜびしょ濡れなの」と聞くと今日の雨は気持ちよかったから濡れているんだと言うのです。そういう価値観もあるのだなと感じました。あと日本とは雨季と乾季が逆で冬が雨季で夏が乾季なのです。夏は非常に湿気があるようですが実は乾いています。イギリスがトラディショナルですけども、非常に爆発的なアヴァンギャルドな文化があると思います。色々な凄い人が出てくるなと思っています。ビートルズやピンクフロイド、ミックジャガー、サラブライトマンは服装が凄いです。レディーガガも凄いミュージシャンです。建築でいうと、ノーマンフォスターも世界的に有名な建築家ですがトラディショナルとは全く逆な建物を造る人です。それとザハハディドなどが生まれている国です。

このようなさまざまな経験が、今の自分の中に引き継いでいる気がします。ですからそういった文化を掘り下げたり、言葉を覚えたりするのが非常に好きで言葉というのはその国の文化を代表するものですけどそんな言葉を覚えたり歴史を勉強するのが非常に好きです。

以上ありがとうございました。

・点鐘

石川 均 会長

・閉会

辰巳 洋一 SAA

